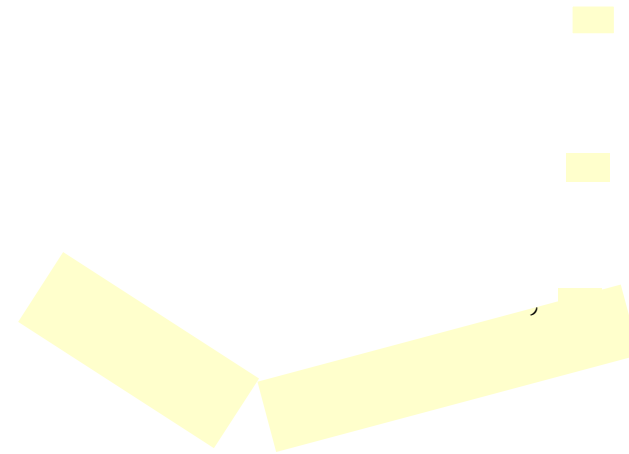
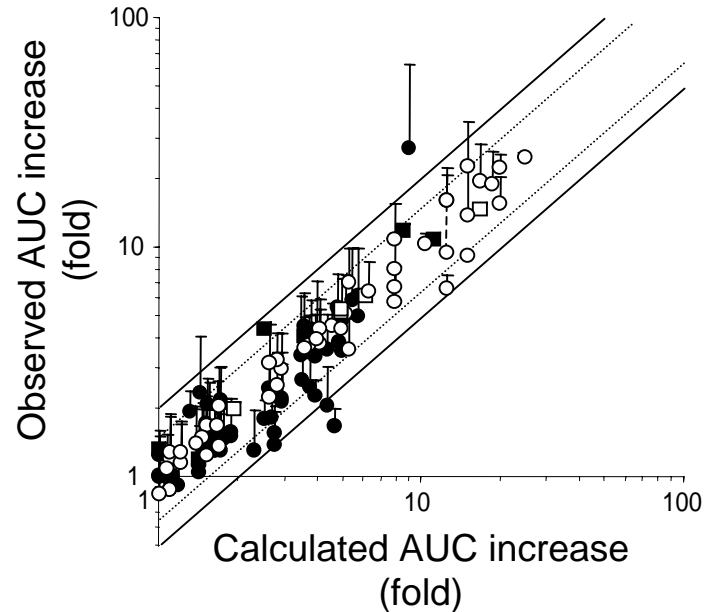


ヒトにおける薬物間相互作用、SNPsに基づく薬物体内動態変動

CYP3A4に関するヒトin vivo相互作用データを解析することにより、阻害剤および誘導剤投与時の目的薬物のAUC変動予測システムを構築した。 データベース化して公開予定



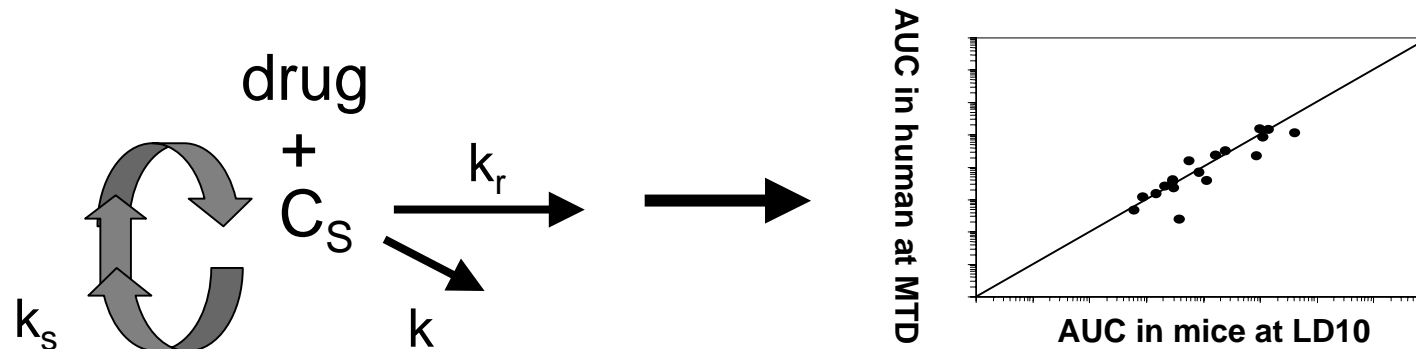
Ohno et al., Clin Pharmacokinet, in press.

- 1) 医薬品開発時における薬物間相互作用、SNPs患者における体内動態変動、SNPs患者における薬物間相互作用の定量的予測 regulation (臨床試験の効率化)および適正使用へ。
- 2) 臨床ゲノム診療部、検査部、薬剤部の三部連携による、患者ゲノム情報にあわせた投与设计 先進医療を経て保険収載へ、PGx試験を行う基盤づくり、適正使用へ。

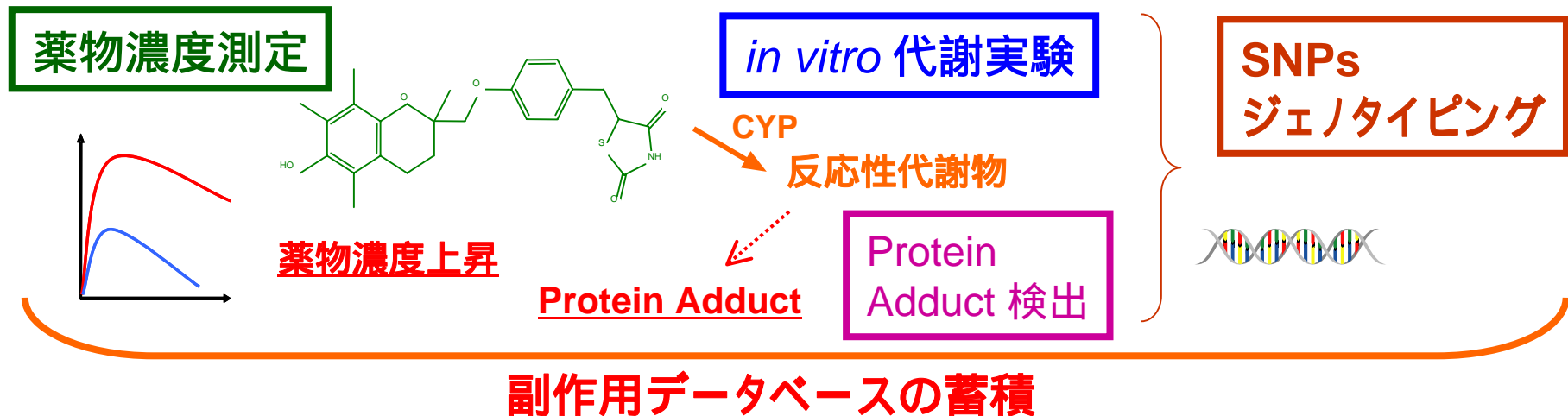
診療科横断的な貢献

1) Cancer Board: 抗癌剤のPK/PD(含SNPs)解析
 ロフェッショナルプラン (技官薬剤師の博士課程教育)

癌専門薬剤師 / 文科省がんブ
 抗癌剤のTDMの保険診療化



2) 副作用Boardの設立: 東大病院内で発症する薬物誘発性肝障害など副作用症例の薬物濃度・ゲノム解析を進め、臨床開発・適正使用に役立てる。



どのような薬が必要とされているのか

日本人平均寿命は男性が81.6歳、女性が88.3歳（昭和22年当時は、男性50.1歳、女性54.0歳）、国民医療費は32.1兆円（対国民所得比は8.89%）

スタチンを心筋梗塞の一次予防で使用する場合、一人の発症を防ぐために男性では1億3千万円、女性では5億3千万円の医療費となるとされている。

癌、神経疾患、感染症も重要な課題。さらに介護期間を短縮させる（QOLを向上させる）ための医薬品の需要。